

氏名(本籍)	季 增 民 (中国)
学位の種類	理学博士
学位記番号	博甲第541号
学位授与年月日	昭和63年3月25日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	内陸工業団地の地域的展開と隣接農村地域の対応 —北関東地方を事例にして—
主査	筑波大学教授 理学博士 山本正三
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木博
副査	筑波大学助教授 理学博士 高橋伸夫

## 論 文 の 要 旨

この研究の目的は、北関東地方を事例に、内陸工業団地の地域的展開過程とそれに伴う工業団地隣接農村地域の変化過程の対応関係を、工業団地内企業と隣接農村地域の性格をふまえて実証的に解明し、その一般的傾向と地域的特性を把握することにある。

そのために、工業団地造成前の地域的性格の類似性を前提条件とし、北関東地方における内陸工業団地の中で、業種構成、規模などの面において代表性を持つ3種類の工業団地がそれぞれ造成された3つの地区、すなわち、多業種誘致企業を主とする神立工業団地が造成された茨城県土浦市神立地区、単業種誘致企業を主とする大平工業団地が造成された栃木県大平町伯仲地区、地元移転企業を主とする坂間工業団地が造成された茨城県古河市坂間地区を研究対象として設定した。分析に際しては、土地利用と労働力の2要素を中心に関連企業や農家への聞き取りを中心とする詳細な調査を通じて工業団地の地域的展開過程とこれに伴う隣接農村地域の対応過程を密接に関連づけながら動態的に分析し、そして工業団地の展開過程と隣接農村地域の対応過程との相互関連、その一般的傾向と地域的特性を考察し、その要因を追求した。

その結果、次の事実が明らかになった。

1) 神立、伯仲、坂間地区の3事例から、北関東地方における内陸工業団地の地域的展開過程と隣接農村地域の対応過程は2つの時期に大別されることが判明した。すなわち、企業進出前期(1975年以前)と企業進出後期(1976年以降)である。

2) 企業進出前期には企業が工業団地に進出したものの、前工場時代の性格を保ち、隣接農村地

域の土地利用と労働力への影響は一部に限られる。ところが、企業進出後期には工業団地内に立地した企業の地域への定着過程の進展に伴い、工業団地の影響は次第に地域の末端にまで及ぶ。

3) 工業団地の地域的展開と隣接農村地域の対応過程の特徴は、工業団地の性格により大きく異なり、地域的特性として現われることが明らかとなった。

多業種誘致企業を主とする工業団地が造成された地区は、労働力市場が多様・開放的であり、隣接農村地域の労働力への影響が量的にも質的にも大きい。工業団地内企業の土地に対する需要は量的に多いばかりでなく、用途も多岐にわたっている。したがって、この種の工業団地造成によって隣接農村地域は著しく大きな変化をこうむることになった。

単業種誘致企業を主とする工業団地が造成された地区は、工業団地内企業が単業種であるため、土地利用、労働力需要上制限があり、工業団地造成による隣接農村地域への影響はある程度に限定されている。

地元移転企業を主とする工業団地が造成された地区は、労働力市場が小さい上に閉鎖的である。工業団地内企業の土地に対する需要は生産用地だけに限られる。すなわち、この種の工業団地は単なる都市計画、住工混在解消のための工場の狭域移動の場としての性格を強く持ち、隣接農村地域への影響は小さい。

4) このような地域的特性は、企業の資金力、規模、業種などを含む工業団地性格という外的要因以外に、土地条件、作目構成、地理的位置などを含めた各々の工業団地所在地の地域的条件（いわゆる内的要因）とも深く関連し、常にこれらの諸条件に規定されることが判明した。所在地の地域的条件による工業団地内企業の地域的展開過程への影響は企業が進出してから10年以上経過した後期に顕著に表われてくる。

5) 地方自治体は、地域の自然、社会、文化、経済にわたる諸要素を十分に考慮した上で、具体的に利益をもたらすと思われる企業や業種群を計画的に誘致した方が望ましい。一方、進出企業についてみると、生産過程や流通面で相互に関連が強い諸企業が同一工業団地、あるいは近接して立地していれば、工業団地は単に整備された土地ということにとどまらず、集積の経済効果による利益を享受することも可能となろう。

## 審 査 の 要 旨

地理学においては、地域の工業化過程の解明が最も重要な研究課題で、これまで数多くの研究が試みられてきた。季氏は、第2次世界大戦後、わが国で最も典型的に工業化が進展した地域の一つである北関東地方を調査対象地域にとりあげ、特にこの地域の工業化形態の特徴である工業団地を中核とする工業化に着目して分析を進めた。この研究で季氏は、工業団地の形成過程、その地域の労働力と土地利用、広く社会的・経済的基盤の変化の過程を3つの類型の代表事例地域について克明に分析し、それらの比較を通して、類似性と地域性を明らかにし、一般的特性の解明を試みた。

その結果、工業団地の形成に伴う地域の工業化の実態を系統的に把握するという課題はかなり明確的な地理学的展望を確立できた。また、季氏の研究は地域の工業化という課題について多くの新しい事実に光を当て、今後の研究に一つの方向づけを与えている点でも注目に値する。

この研究は工業地理学にとって大きな寄与をなすものとして、高く評価される。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。